

1. 燃え止まり型耐火集成材

特徴

- ✓ 木造の耐火建築物に求められる耐火構造として、大臣認定を受けている燃え止まり型の部材
- ✓ 建物の規模の制限を受けることなく、木現しでの木造化が可能
- ✓ 藤寿産業では複数の大臣認定部材の取り扱い実績有り

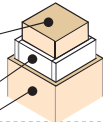
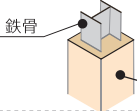
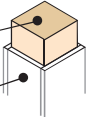
想定される用途と実績

- ✓ 都市部の木造化として計画される中高層ビル、床面積が3,000㎡を超える大規模施設
- ✓ 都市部の文化交流施設、高齢者福祉施設、保育園などで実績有り



耐火建築物・耐火集成材への取り組み

✓ 耐火建築物としてルートA、B、Cの適応物件及びルートA耐火部材の各種部材の製造・施工実績有り

A. 耐火構造（大臣認定部材）		B. 耐火性能検査法	C. 高度な検証法	
適合ルート A		適合ルート B	適合ルート C	
・ 右記の理由により通常の事務室程度の天井高さの建物はルートAを採用するしかない。 ・ 告示の例示仕様には木材を利用したものが無いため大臣認定工法を採用する必要がある。		・ 室面積、天井の高さが必要であり、事務室用途では実質的に採用不可能である。 ①柱、はりの小径200mm以上 ②開放性の高い空間で火災温度が低い ③木造部材が使えるのは床面からの高さが5.55M以上 等 (出典)『耐火性能検証法の解説及び計算例とその解説』海文堂出版	・ 室面積、天井の高さが必要であり、事務室用途では実質的に採用不可能である。 ・ 準耐火構造で燃えしろ設計とする場合と比較すると、燃えしろを不要とすることで、部材寸法を細かくしたり、ボルトを露出させたりできる場合がある。	
構造・断面	① 燃え止まり型  荷重支持部材【鉛直力】 燃え止まり層（不燃木材等）【水平力】 燃え代【水平力】	② 木質ハイブリッド型  鉄骨 燃え代（木材）	③ メンブレン型  荷重支持部材 耐火被覆材	複数の大臣認定部材の制作・加工・施工が可能
	団 企 業	・ 耐火木質ラーメン構造研究会 ・ 大手ゼネコン、大手建材メーカーの各種認定部材	・ 鉄骨内蔵型耐火集成材（日本集成材工業協同組合）	

耐火集成材の研究開発事例／耐火木質ラーメン構造研究会

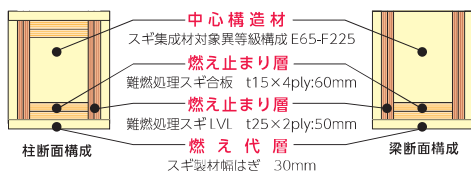
✓ 2016年12月耐火集成材の大臣認定を取得

国土交通大臣認定書

柱：FP060CN-0683
梁：FP060BM-0421



木質耐火部材の仕組み

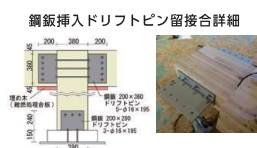
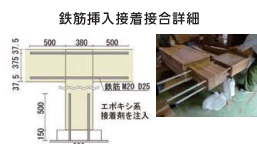


大臣認定 断面寸法 (mm)		
柱	全断面	310×330～860×880
	中心部材断面	150×150～700×700
梁	全断面	360×390～360×990
	中心部材断面	200×300～200×900

性能評価試験の実施

軸組接合部 + 壁・床・屋根との接合部に関する耐火実験により、耐火性能を確認

木質耐火部材の接合方法



柱・梁接合部の被覆

